

地域とともに歩むために

平成19年12月に総務省から「公立病院改革ガイドライン」が示され、今こそ、市立札幌病院のミッション、そしてビジョンが問われている時代はありません。多くの指摘事項が盛り込まれています。

院長以下多くの職員がまとめた所謂「市立札幌病院新パワーアッププラン」を読めば、当院の目標が一目瞭然であり、病院職員全体が、これを自分の問題として、日々感じながら仕事をしていくことが私の願いでもあります。

また、病状が安定した患者さんを地域の医療機関でフォローしていただく地域完結型医療を積極的に進めるため連携推進に取り組んでいます。紹介していただいた患者さんの当院でのフォローを徹底するためにも院内各部門間の連携を強化することも大切なことと考えています。当院の各部門には優秀な人材がいると自負いたしておりますが、部門間連携の強化で新たな力が発揮され、患者さんのみならず、紹介していただいた先生方のお役に立つことも重要な役割と考えています。そして、この部門間連携の強化は院内情報伝達の迅速化につながり経営面にも何らかの好影響があるものと確信しています。

経営面といいますと私も院内で診療報酬委員会の委員長を務めており、診療報酬査定に悩まされる一人ですが、急性期医療を担い、安全で安心できる質の高い医療を提供し続けていくために昨年7月にDPC（診断群分類包括評価）制度を導入したところです。これにより、医療の質を保ちながら、いかに収益を上げるかという経営意識の変化が伴ったことは言うまでもありません。



副院長
樋口 晶文

しかし、忙しい中、情報が充分末端まで伝わらず報酬の「取り漏れ」が発生いたします。当たり前ですが対策として、医事課中心に多くの連絡、連携を行い、しっかりやっていくことにつきます。

DPC制度では、医療の効率化を図り、入院治療期間の短縮が求められており、入院予定の患者さんには、外来で可能な検査の大部分を済ませていただき、結果に基づく治療スケジュールを決めさせていただいております。DPC制度についてご理解いただき、今後も患者さんの治療にあたらせていただければ幸いです。

これからは、各部門でそれぞれがしっかりと目標をもって、多くの情報を互いに交換して良い仕事をしていきたいと考えています。

院内の連携がしっかりとこそ、地域の医療機関の皆様にご満足いただける連携ができるものと思っております。

この広報誌の題名でもある「かざぐるま」がドンドン回る連携の風が吹くように、地域の先生方には今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

市立札幌病院新パワーアッププランのポイント

札幌市内には多くの病院があり、医療の供給体制は充実しています。こうした中で、市立札幌病院は、複数の病気を抱える患者さんへの医療や救急・周産期・災害医療など、採算等の面から民間の医療機関による提供が困難な医療を中心に、専門性の高い医療スタッフによる良質で高度な医療を将来にわたって安定的に提供し、市民の命の砦としての役割を果たします。

役割1：医療機関との機能分化・連携の推進：「地域完結型医療」の確立を目指します。

役割2：不採算医療・政策医療の提供：「三次救命救急センター」や「総合周産期母子医療センター」などの指定を受けています。その役割を積極的に担っていきます。

役割3：がん治療の質の確保・向上：「チーム医療」の実施など診療体制の充実を図り、がん治療の質の確保・向上に努めてまいります。

役割4：高度で先進的な医療の提供

役割5：医療従事者の育成：地域医療の担い手となる質の高い優れた医療従事者を育成し、地域の医療水準の向上に貢献します。